当院における急性期・維持期リハビリの紹介

令和４年
２月 吉日
第１６号

今月号では当院で行っているリハビリテーションについてご紹介します。当院は2つのリハビリ担当チームに分かれており、1つ目のチームでは“急性期と維持期”を、2つ目のチームでは“地域包括ケア病床”を担当しています。私たちは前者のチームに属し、理学療法士5名体制で運用しています。

今回は、私たちが行っている急性期と維持期リハビリテーションの特徴や目標、リハビリの内容についてのおはなしです。

詳細は当院ホームページに掲載中！

担当：碓井
織田

【急性期～維持期リハビリの流れ】

急性期（入院）

入院中は治療や体調不良で
ベッドで寝ている時間が長い

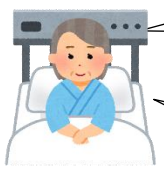
筋力や体力が落ちてしまい、
動けなくなることも･･･

目標 ～ 入院早期からできる限り体を動かし、筋力や体力の低下を予防する

体調に合わせ、筋力訓練や
車いす･歩行練習などを行います

無理のない範囲で、
できる限り体を動かします

維持期（療養病棟）



動く際に介助が必要な方は
寝たきりになりやすい

入院期間が長く、病棟が生活の場

**目標 ～ 不活動により能力が低下しないよう
積極的に運動を行う
病棟生活の中で楽しみを見つけ
ご本人が望む生活ができるよう支援する**

寝たきり予防のため
積極的に体を動かします

ご本人の希望を取り入れながら
リハビリを行います

急性期（外来）

骨折や手術により
受傷部位が動かしにくくなる

安静にすることで
体力が落ちることも･･･

**目標 ～ 骨折や手術によって生じた
関節の硬さや筋力低下、体力の改善**

入院中だけでは行えなかった
術後リハビリを行います

骨折や術後の治癒状態に
合わせて運動をします

維持期（外来）

関節が痛い

転びやすくなった

退院後の生活が不安。
もう少しリハビリがしたい

**目標 ～ 痛みや身体機能を改善する
退院後の問題点を解決し、元気で安全に暮らすために運動を行う**

痛みや身体機能を改善するために
その方に合った運動をします

退院後の生活に必要なリハビリをします

リハビリが必要かどうかを判断するための
簡単な検査も行っています

～ 1階リハビリ室紹介 ～

リハビリは患者さんの身体機能、生活環境に合わせて行っております。当院には1階と4階それぞれにリハビリ室がありますが、今回は外来リハビリで使用することが多い1階リハビリ室にある一部の機器や用具を紹介します。

① 平行棒・階段

安全に歩く力・段差昇り降りする力を強化するために使用します

② 筋力トレーニング器具

動作に必要な筋力をつけるために様々な用具を使用します

③ 歩行関連用具

生活環境や歩行能力に適したものを使用して練習を行います

④ 滑車

肩の手術後のリハビリ等に使用します

⑤ コグニバイク

課題に回答しながら運動を行うことで、認知機能や全身持久力、下肢の筋力等を鍛えることができます